冨田さんは現在81歳。息子さん家族との同居を機に武蔵野市に転居し、活動をスタート。

市民のチカラ

市内で活躍する
さまざまな団体をご紹介します

ちょこっとお助け隊

小さな困り事に自己流でサポート

冨田節夫さんがボランティア活動を始めたのは70歳のとき、東日本大震災でのボランティアに参加したことがきっかけでした。被災地で出会った一人で参加するボランティアの有志に刺激を受け、また、震災で両親を亡くし進学や就職が困難な経済的弱者の若者たちの現状を目の当たりにしました。この経験から自分にもできる社会貢献を考え、74歳で「ちょこっとお助け隊」を立ち上げました。

「ちょこっとお助け隊」の基本的なスタイルは、冨田さんが一人で活動する形態です。これは組織に入って活動するより、個人で自由に支援を行いたいという思いから。そこで考えたのが、業者に依頼するほどではない小さな困り事を、自身の無理のない範囲でサポートする自己流の活動でした。

「例えば、足が悪い一人暮らしの高齢者は、外にごみを出しに行けないんです。3分程度のこの作業だけを、ヘルパーさんにお願いしづらいでしょ。水やりや郵便投函（とうかん）などもそう。私なら朝のウオーキングのついでにできますし、健康にもいい」と冨田さん。ほかにも、草刈りや清掃、買い物の代行、リハビリの付き添いなど、活動は多岐にわたります。

これらの利用料金は10分100円という手軽さから、依頼が年々増え続け、2021年には出動回数が697件にまで上りました。リピーターや利用者の口コミなどによる依頼も増え、冨田さんもやりがいを感じていらっしゃるとのこと。「いただいた謝礼金や活動資金の一部は若者支援活動に寄付しています。私に依頼する高齢者の方からいただいた謝礼金を、被災地で出会ったような経済的弱者の若者に回すことで『循環型』のボランティアだと位置付けて行っています」と、活動への意義も語ってくれました。

現在、その思いに共感し、一緒に活動する仲間がいます。リタイアされた方、出勤前や退勤後、土日などに活動を行う現役の勤め人の方、家事・育児の経験豊かな女性の方など、多彩なニーズに対応できるのは彼らのおかげとのこと。

今後についても「私のような〝一人ボランティア〟が増え、ゆる〜く地域に連携の輪ができるのが理想」と話す冨田さん。この自己流の活動が誰かのきっかけとなって地域のボランティアの輪が広がっていくことが期待されます。

ちょこっとお助け隊（非営利任意活動）

2017年に活動開始。公的介護や家族ケアのスキマのお手伝いを中心に行う。現在、出動回数は初年度の約7倍、依頼者も2倍、若者の巣立ち支援の寄付金額にいたっては10倍に。2021年に一番多かったごみ捨ての出動回数は140回。ほか、外出・病院付き添い、介助、掃除、猫の世話など30以上のお手伝いを実施。冨田さんいわく“素人のオッサンの活動”のため、依頼をお受けできるかは要相談とのこと。

お問い合わせ／ちょこっとお助け隊（TEL：090-5415-1623）

広い庭での草取りは、仲間と一緒に作業を行います

車椅子の利用者の方に付き添いお花見へ